

うーん リンたぐりには
ショボかったりして。

びよんど

でいすくりぷしょん

Mr. Dakyo →

6631 古木 登

「あ、古木さん、戻血取ってよ。サンキュー」

「あ、弁当買いに行くの？ ついでにジョア買ってきて。」

「古木さん、何やってるの？ それじゃないでしょうか。今のはパッソ一切るのが正解じゃんか。まったく何考えてるんだらうね。」

「あれ、古木さん、また午後空いてるの？ え？ まったくヒマなんだねえ 留年したいねえほくも。」

「ねえねえ古木さん、4年生の追いコンなんだけどさ、古木さん出ます？ なに？ 追い出す方だよもちろん。あ、そうか、えへへ、そうか。山口と同じなんだな結局」

「そんな事 古木さんにとっては 無理・無駄・無意味の3原則じゃん」

「ローン！ リャンワン！ 古木なら出すだろうと思っただよ。」

「またいじけてる。まったくすぐイジケるんだから、年寄りば」

「何だよ遅いなあ早く読んでよ。次ほくがリークしてるんだから。そうそう『釣リキチ三平』なんて読んでないで、早く早く。」

よせばいいのに毎日部室へ行くと、元部長のひだとか前部長のS、あるいはムーミン山口などが、ぼくの事をバカにするのだ。就取の決ったMなどは、研究室に雀友が居ないというだけの理由で、わざわざ混一色をやり部室に来る。あげくのはてに常識人であるぼくを陥しいれるワナ(ドヒッカケのカンランソウ)を用意しているのだ。目に至っては、ぼくのセンチメンタリストック・ストイシズムを全く理解しようとせず、(この点には表面的には小島の独壇場であるわけだが)何かにつけてムリ・ムザ・ムイミを持ちだすんだからいやになっちゃうよ。どうしてこげなクラブに入部したとかなあ、ああ、うう、ぼくの心は千々に乱れるのであります。思えば良かった、1年の夏合宿。

1. 昭和51年度 夏合宿 ^{チョン}中東班

北海道の東方見聞録、ここ花咲の小学校校庭では、期せずしてクロモリ組とハイテン組に分裂してしまったのだ。ジנגスカンなべを囲んで なごやかに夕食… などと思ったのも横浜の山の手の出身のぼくとしては無理からぬところ、その眼前に操り広げられたる血で血を洗う壮絶な斗い、それが他でもないわれらがハイテン組なのであった。人間、貧乏だけはしたくないもの、いかに高貴な育ちのぼくにしても、鈴木氏のフォークの魔術の前には、必殺、チョップスティック・インターセプトの技の応酬を禁じ得なかった。これがそもそもの食い意地

の張りはじめ。そもそもサイクリング部の伝統とか言って、合宿のメシ時に限ってやたら腹の中に有機物をつめこむやつがいる。52年度の春合宿の時には6人で2キロの米をたいらげて、まだ腹がへったという雰囲気あたりをまき散らしていた。たとえばそのメンツが、沢木氏、永見、鈴木4、小島、小野、ぼくという欲求不満型大食い人間が揃っていたとしても、許される筈がない。王さんがホームランを打てるのは、もりもり食べるからであって、ガツガツ食べるからではないのである。だいたい、メシばかり食べすぎると、クソが黄土色になり、異臭を発するようになる。これではとても、便所に財布を落したとしても捨てる気になれん。よくこんなクソ袋を、われらの自転車に乗せてくれたものである。もっとも、ぼくの自転車はメタ茶色ではあるが。

2. 昭和52年度 夏合宿 ^{トシユ} 東女班

これはまったく言うことないよ。行く直前までああだこうだ言いやがって、宝谷さんが雑事すべて解決してくれたから、ぼくがどうのこうの言うのもおかしいけれど。途中で東女とお別れして宝谷氏と走ったときの爽快さと言ったら……ま、それだけでも行った価値もあるか。だいたい、女の子と合宿行く、ちゅーのはどういうもんでしょうかぬえ。彼女らにしてみれば、もちろん言い分はあるでしょうよ。「体力」とひとくちで言って

しまえばそれ、きりなんだけど、女の子っていうのは、男の子とは全然ちがうのよ。とってもしリリックなんだから、自転車なんて、普段乗る分にはゼーンゼンどってことないけど、1日中乗ってて、何十キロも走るとなると、女の子にとっては拷問なのよ。私なんて、何度イッちゃったかわかりゃしないもの。砂利道なんて、スゴイのよ。ああ、もうやめられないわ。上原君なんて、泣いてすぎるんだから。あのひと、ヒゲヅラさげて卒研やってるけど、本当はとっててもカワイイの。小島君とはエライちがいよ。そう言えばね、三浦君も曾我部君も土井君も「まだ」なんですって。いやあね。あのトシでまだなんてね。カビがはえちゃうてんじゃないの？ そういえばね、三浦君はね、こないだ、ホテ……

おっと 　　ここらで正気に戻りたい。戻りたいのはヤマヤマだが、ここでハッキリさせておきたいことがある。それは、ぼくと東女との間には、何もないということだ。「なあ〜んだ」と思うだろう小川君。君は当然だと思っているだろう。スズキ君、きみもだ。だが、ヤッチマオウと思っただけでできるんだよ。ほんとだよ。だけどち、ちやいから自分のことヤッチャンと呼ぶんだよ。おかしいね、ヤッチャン。だってさあ、あのムーミン山口がさあ、別府で… うふふ

エスカラリーの時には、ぼくはK女史を旧式手エリーに乗せて鞍掛沢まで行ったんだもんね。ランランラン、ウオッフ。

3. 昭和53年度 夏合宿 ^{たなほ}南北班 (CSERSC)

うーん、これが問題なんだよなあ。ぼくとしては、ちっともおもしろくなかった。もりゃね、マスカキ班よりゃずっと上品だったし、リッチだった。だけどちっちゃいから自分のことヤッチャンと呼ぶんだよ…… (デュフ〜 ← 小島いゆく)

追記 「ちっともおもしろくなかった」と言うのは言いすぎだといふでは思える。実際、「ちっともおもしろくなかった」と思ったのは打ち上げの時だけだったと思われている。今では、「ちょっとしかおもしろくなかった」と言い換えるのが適当であろう。何しろ、かの有名なマスカキ班に圧倒されてしまった。後になつて舟藤が、「シモの語が盛なぞやおもしろくないよ〜」と蚊の鳴くような声で語ったのもそれを証明^{して}いる。今では、この夏合宿はぼくにとってかなり多くの教訓を提供してくれたものとして価値があるのである。この時は、渡辺君がぼくの気持ちを察してくれていたのかとてもうれしかった。

4. 昭和54年度 夏合宿 出羽の海部屋 (出羽ごもり班)

こりやまた何といおうか ^キキキキ ハッキキ カラオケ付きのハッピーオムデタ夏合宿だった。ぼくの気持ちとしては ^す酔いも甘いもか ^ぞめけた年代になつて4回目の夏合宿というわけで過大な期待もせず、むしろ「どうなるんかな〜」という絶望に近い気持ちでスタートしたのが幸いしたのかも知れない。それにしてモ

バカスズキの個性、アホ村瀬のカセット走行、ボンボン嶋の
のんびりペース、そしてスーパースターの古木君の^{よんみ いたい}回身一体と
も言うべき抜群のチームワークは、ムーミン山口のひきいるゴ
キブリキスカ班を圧倒して余りあるものだったと本人は思っ
ております。ハイ。それにしても心細かったのは高海山の山小屋
でムーミン山口、ゴキブリ永見、キスカ香藤が突に軽々とス
カイラインをよって来た時のことでした。しかし次の瞬間、ほ
くは勝ったと思っただね。それは1年生の千ヤリニコイジク吉田
君と何も形容詞のうかばない三井君が黙々と先輩の言いなり
になってたのを見た時だった。こっちは何しろアホ村瀬が
「こんな肉なんか食えるか」と言いつながらヒトの分まで肉を食って
知らん顔をしてるくらいだからね。さらにアズ押しは香藤の。

「シモの話を聞いてないよ〜」「マスなんかカケナイヨ〜」だもね。
かわいそうに彼等は豪雨の犠牲となり、山形のぬかるみの中へ
どっぶりとめりこんで行くのだった。それにしても小川なんぞ
土浦のIBM相手に奮戦ヨーテリスだったとは。

(註 IBM = Ibaragi Busu Musume)

それでは次に春合宿の話をしよう。ナニ？聞きたくない？別
にかまわんぜッ。長老の話をないがしろにする奴は、今にセル
ゲイに食われて死んでしまうぜッ。西庵、聞いてるか？最近全
然会わんなあ。腹が出すぎて会えなくなったんかなあ。

5 昭和51年度 春合宿 山ごもり班。

大杉谷へは1度は行ってみるべきだ。ここは自転車は不要だから宮川村に自転車は置いて、晴れた日をぬらって、2~3日かけて絶対行くべきだ。(ただし現在つり橋が落ちて行けないかもしれない。このあいだ観光客がつり橋を落ちたらしい) とうは言っても行ってみるべきだ。行く価値はある。行け。行ったら桃の本小屋のおばあちゃんによろしく。この合宿は抜群だ未。

6 昭和52年度 春合宿 山ごもり班。

この合宿も良かった。石鎚山はあくまで雪をたたえて我々を寄せつけなかった。石鎚スカイラインから眺めた石鎚山は、鬼気せまるものがあった。(だいたいこの合宿はんだまな一ツが黄土色になったのは。そんでそってそー 永見が三浦木氏のメルの食い方を見習いやが、てセコイというよりもスゴイの一語につまるよ)

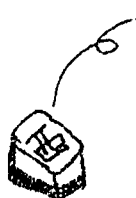
(CM)- エライ! 永見! ツヨイ! 永見 - (CM)

永見と言えは ビークワン
 ビークワンと言えは 永見

フレ-! フレ-! ナ・ガ・ミ

ソリッ フレ-フレ- ナガミ
 フレ-フレ- ナガミ

『 □ ~ ソン! 』 リーチー発ドラ6!

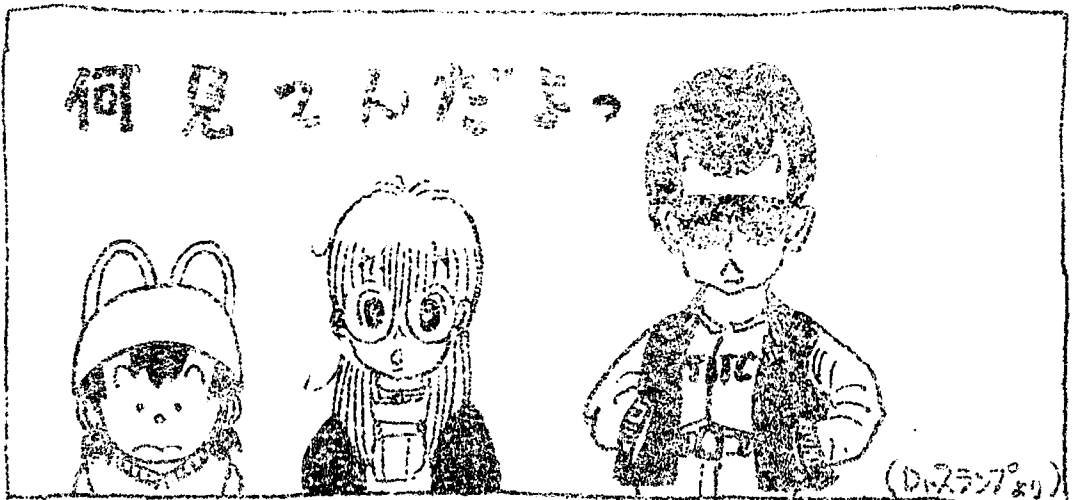


7 昭和53年度 春合宿 山ごもり班?

だいたいさー せっかくブルートレインに乗ったのにぬー
(註、これは打上げ後の帰途の話である。この春合宿では山口君が
別府で、高橋君が山陰で、それ以外にいた) 春合宿での歌
しいが飽き、ほくくない思い出し胸に、三浦君と古木君は特急みず
ほで博多をあとにしたのだった。B寝台は3人がけの6人ボツ
クスだった。ほくらの隣りにはうら荒き世子大生が、これから
はじまるであろう都会の生活への期待と不安を胸に、サカシの
小説など読めたるもいと憂かし。ほくはおとまたちにはりたか
った。三浦君と語らしながらも、ほくの心は、「オイ三浦、気を
効かさんかい」と心にもなることと思っちや、たりなんがして、
三浦が下関でマンガを買いに行った時、イケナイイケナイと思いたが
らも「疲り懸ゆる」と念じているほく。て、思い子ぶりっ子。ても
女の子って寝台車で、どんな格好して寝るんだろうか。ほくは
そんな純真な疑問をもちながら、何度もカーテンをつまんで覗
こうとするほくの手を制止しながら、夜も眠れぬ間絶逆セクラゲ
を染じているのでした。ロジャマかな? ネグリジェかな? 翌朝、
ほくの目覚めを襲ったのは巨大なテント、いや富士の嶺でした。
結局 何にもできなくて横浜に降り立、
たほくの背後で、小川のあざ笑う姿が星一徹となつてのしかから
てくるのでした。でも本当は その子 ブスだったんよ。よかった。

君が僕と、僕が君と、僕が君と

正直言って、今1980年1月17日です。本当は80年のO.L.の幕巻いちかだけじゃなく、正直言って優勝できてうれしかった。と、この事だけ言うために、項を設けたわけなのですが、正直言って曾根部が居たら負けていたであろうと思われまふ。それほどボクにとって（あるいは我々の代：輝ける6000舞台にとって）曾根部のリキというのは驚異だったので。その、われらがヒーロー曾根部君が、T.T.で木見氏に負けた時、我々の時代が終、たと思ったのはボクだけでしょうか。



それととも、我々の時代ってというのは、我々みんなで作ってきたものだという、ほんの1グラムの心遣いが、ヤッパシあるんじゃないだろうかという思いを胸に、そして、何ともし言えないあらゆることのできない、存つかしさが、今現在ボクを包んでいるという事実を胸に、本文を終了することにいたす。

ゴメンナ
ヤレハウ
スペースが
ナクアッタ!

Wow! 6000系

Yes, a girl...
on...
...

★6097 上原亨敏 (出) 博馬 (出) ...

得業技 = 「ゴメンネ」とあやまりながら口づけ。必殺技 = 胃液から
胃腸が悪く勝負の途中で顔面蒼白になり食吐を起し再起不能と
なる

★6128 小野賢治 (出) アラン (出) 広瀬園 (出) 橋本節内の女子学生
の人気の的 いかく「マジメでかわいい」必殺技 = ガムガムク

★6149 木塚隆夫 (出) 江ノ島 (出) 江之島 (得) 江之島 BWH 江ノ島

(得) プロレス 愛読書 = ゴング (得) アリジゴク 必殺技 = 糸リヤ折

★6282 小島正也 (出) 口をどろどろ開いたことがあるよっ...

(出) サイクリング部員 (得) サイクリング部室委員 (出) (何に聞いても) 暴走

(得) フェイント 必殺技 = 就転する 就転する $\xrightarrow{\text{一転}} \rightarrow$ すりせん入院

★6350 佐藤恭輔 (出) 郡上八幡 (得) 大富豪で有りながら特
に大富豪に恐威まよえる (出) とくいの大富豪ストレートカード5枚以上出し

★6414 鈴木直夫 (出) 浜松南 (得) ヲガ (出) 断食 (出) 「ネエネネ」

★6424 管我部成一 (出) うらり (得) キン肉 露出 (出) ヒーロー (出) 他人
とれども走った 青森一下南 ブッギリ 向い園と戦う男の姿がとこに

あった... ★6548 西尾孝毅 (出) 略 (得) 略 (出) 略 西尾に負けたら恥

★三浦洋嗣 6672 (出) ムサン (得) セ対ドラウ (出) カンヤンワン待ち、リーチ

★6763 吉田弘行 (得) 青森ねぶた ★6777 涌島恭司 (得) クエー (出) 暴露